

秋田の温泉

近藤 忠三

(秋田大学教授)

秋

秋田の温泉で広く知られているものといえ、湯瀬・大湯・玉川・大滝・日景・稲住ぐらゐのもので、秋田が温泉国日本でも屈指の温泉県であることは案外知られていない。

これは、泉温五〇度(摂氏)をこえる高温泉が鉄道沿線の平野部に少なく、山地に多いことが禍しているものであって、八幡平や乳頭の温泉は大部分が海拔八〇〇メートルから一、〇〇〇メートルの高所にある。しかし、それだけ健康的なレクリエーションの場としての将来性が埋蔵されているともいえる。

日本鉱産誌(一九五七)によると、秋田県の温泉および鉱泉として四六があげられており、数においては北海道の六一、福島県の六〇、群馬県の五三に次いでなんと全国第四位にあり、山形県の四五を僅かながらリードしている。さらに、秋田県地質産出図(一九五七)には温泉四五、冷鉱泉一二、計五七があげられている。

しかも、泉温七〇度をこえる「熱泉」が蒸の湯・後生掛・銭川・大深・玉川(以上八幡平)・孫六・黒湯(以上乳頭)・小

安・皆瀬大湯・棚湯・泥湯・川原毛(以上皆瀬)・荒湯・鷹の湯(以上秋の宮)・大湯と一五もあり、泉温五〇度をこえる高温泉は一七を数える。

しかし、これらの大部分は県の東北部・東部および南東部に集中し、それぞれ大湯・八幡平・乳頭(または先達)・皆瀬および秋の宮の温泉群と呼ばれる。

最も優勢なのは八幡平温泉群で、前記のほか澄川・赤川・上トロコ・下トロコ

・志張等の温泉があり、乳頭温泉群には前記のほかカニバ・鶴の湯

・妙の湯がある。また宮城県に近い、秋の宮温泉群には前記のほか稲住(源泉荒湯)・湯の岱

・湯の又等がある。これらのほ

かには、男鹿半島の温泉群、奥羽線沿線に日景・森岳・岩倉・湯の神・院内湯の沢・花輪線沿線に大滝・湯瀬、生保内線沿線に夏瀬があげられる程度である。

熱泉や高温泉が火山周辺に多いことはいうまでもなく、八幡平には焼山、乳頭には駒ヶ岳という那須火山帯の活火山があり、噴蒸型の熱泉をもたらししている。

また男鹿半島には第四紀の火山寒風山のほか一種の火山であるマール、目潟群があり、皆瀬および秋の宮の温泉群は高松岳という第四紀の火山を取巻いている。

注目すべきは、鳥海山が活火山であるにもかかわらず、周辺に自然流出の高温泉がみつかつていないことである。この理由の解明は今後の課題である。

以上の火山性温泉のほかに、秋田県には非火山地域に温泉が少なくない。それらには三六度から四〇度くらいの暖温泉や微温泉が多いが、森岳温泉のように六



薬効ある温泉の王者・玉川温泉

プール開設!

山中で味わう海水浴気分
指導員が手足をとってコーチ

ゴルフ練習場・ボーリング機械など
娯楽設備の完備したデラックス観光場

秋田の奥座敷
森岳温泉

国際観光旅館
丸富ホテル

TEL (森岳) 53・54・74

